

第1回 双葉町復興まちづくり委員会

ふるさと再建部会 議事録

- 日時 : 平成24年11月12日(月) 午後3時05分～午後4時30分
■場所 : 双葉町役場埼玉支所 4階4-B
■出席者 : ふるさと再建部会委員
事務局(双葉町企画課)

(参照: 第1回ふるさと再建部会座席表)

1. 開会

【事務局 平岩 邦弘】

それでは第1回目のふるさと再建部会をこれから始めたいと思います。まず始めにこれから先の進行ということで、暫時の議長を、住民生活課長の渡辺委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2. 部会長並びに副部会長の選任について

【渡辺 勇 委員】

皆さん、ご苦労様です。暫時、部会長を決定するまでの役割を任せられましたので進めたいと思います。座って進めさせていただきます。まず先程説明がありましたとおり、「部会長並びに副部会長の選任について」議題としたいと思います。部会が委員会の規定の準用ということで、委員の互選で部会長と副部会長の選任になります。これについて、推薦あるいは自薦等ございましたら、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

【木幡 敏郎 委員】

議長。今回、全体の委員長にもその道に詳しい先生になっていただいております、ましてや今回、このふるさと再建部会は、大変いろいろ難しい所も含み、かなり勉強していかなくてはならないのではないかと私は思っておりますので、そういった面では、清水先生に是非とも部会長になっていただいて、私たちがそれを後押しして、本当に、住民の方のために応えるような意見をまとめることができればと思いますので、清水先生に是非なっただきたいと私は思います。よろしくお願いいたします、先生。

【渡辺 勇 委員】

という意見がございますが。

【清水 修二 委員】

ただ私、毎回出られる保証がないというのがちょっと問題なんです。そのところ了解していただけるかどうか。それから今日だって私、3時半にもう出なきゃいけない。

【渡辺 勇 委員】

では、途中で退出される都合になるかと。

37 【木幡 敏郎 委員】

38 先生には、全体のいろいろな知識とか方向性とかを含めて。

39 【清水 修二 委員】

40 気持ちはあるのだけどできるかな、という不安がある。副の方、どなたか。

41 【遠藤 直敏 委員】

42 副の方は、常にこれに出席できるのが条件になりますよね。あるいは町の方か、あるいはこちら
43 らの仕事で自由がある方ということになりますよね。

44 【渡辺 勇 委員】

45 意見がいろいろ出ておりますが、いかがですか。

46 【武内 裕美 委員】

47 清水先生がやっていたということであれば、副の方はこれまでいろいろ議会等で各委員長
48 を歴任されて、十分そういう委員会のまとめ役というのも経験されている木幡委員になっていた
49 だいてはどうかと提案したいと思います。

50 【渡辺 勇 委員】

51 部会長は清水先生、副部会長は木幡委員というふうな意見がございます。他に何かご意見等ご
52 ざいますでしょうか。

53 【木幡 敏郎 委員】

54 この委員引き受けたからには、皆さんと一緒にやっていきたいと思いますので、先生に引き受
55 けていただいて、私はその時に補佐という形でいかがでしょうか。

56 【渡辺 勇 委員】

57 本日に限ってですが、清水先生は先程話があったとおり 30 分には退出しなくてはいけないと
58 いうことで、本日の進行に限り、木幡副部会長に了解をお願いしたいと思いますがいかがでしょ
59 うか。

60 [異議なしと呼ぶ委員あり]

61 【清水 修二 委員】

62 その方がいいですね。私が途中で代わるより今日はやっていただいた方がいい。

63 【木幡 敏郎 委員】

64 先生にいろいろご協力をぜひともお願い申し上げます。

65 【渡辺 勇 委員】

66 それではそういうことで、部会長は清水先生、副部会長は木幡委員で、本日の議長としては木
67 幡委員の方をお願いするというので決定させていただきます。

68 【事務局 平岩 邦弘】

69 事務局からですが、まちづくり委員会設置要綱の方で部会設置等については委員会の規定を準
70 用ということになっております。副部会長については、委員会の規定を準用ということでは 2 名と
71 いうことになっているのですが、人数が少ないということもありますので、副部会長については
72 1 名ということでは提案をさせていただきたいと思いますが、これについてお諮りをいただきたい
73 と思います。

74 【渡辺 勇 委員】

75 副部長の方は1名の定員枠でお願いしたいというふうに事務局からございます。この件につ
76 いていかがでしょうか？

77 [異議なしと呼ぶ委員あり]

78 【渡辺 勇 委員】

79 それでは以上決定いたしましたので、暫時、議長役の私、渡辺は、ここで下がらせていただき
80 ます。どうもありがとうございました。

81

82 3. 議 事

83 (1) 帰還に向けた条件について (審議)

84 【木幡 敏郎 副部長】

85 本日、皆様方にもこれから、ある程度まとめるまでは、本当にご苦勞をおかけしますが、
86 これは自分のこととして、また双葉町のこれからのこととして、そしてまた家族のこととして、
87 真剣に、共に勉強しながらやっていきたいというふうに思いますのでよろしくお願い申し上げます。
88 それでは議事に入りますが、本日の議題は皆様方のお手元にありますように、1つは「帰還
89 に向けた条件について」となっております。まずこれは事務局の方で、1つの案ということであ
90 りますので、その他いろいろありましたらまた後程ということで、帰還に向けた条件について、
91 議論いただきたいと思います。まず初めに事務局の前に清水先生の方から、よろしくお願いいた
92 します。

93 【清水 修二 部長】

94 時間ありませんので申し訳ございません。今回は、11月26日だそうですが、私は、ベラルー
95 シに行っておりまして、この日も出られないという状況で大変申し訳ありません。10月2日に
96 双葉町の現地を、視察に行かせていただきました。その時に町の状況を見て、この議題になっ
97 ております、「帰還に向けた条件について」いろいろ考えるところがありまして、それを申し上げ
98 たいと思います。要するに、インフラの整備を1つとってみても、インフラの復旧をまずやって、
99 条件を整えて、「みんな戻りましょう」というふうにはなかなかならないだろうということなの
100 です。つまり誰もいない所で「インフラの復旧というのはできるのか」、あるいは「商店街を復
101 興することができるのか」というふうに考えますと、やはりこの一定の規模の帰還というものが
102 前提でないと、なかなか難しかろうというふうに思うのです。ぼつりぼつりとしか帰ってこない
103 状況の中で、上下水道の復旧はできるのか。あるいは病院を、もう一度再開できるのか。つまり
104 帰還の計画と帰還の意志の分布、それとインフラの整備というのは一体でないと処理できないで
105 あろうということが1つです。

106 もう1つは、上下水道で、かなり地盤沈下が起こっておりまして、地面の下がどうなっている
107 のかがよく分からないですけども、仮に5年ぐらい放置しておいた場合にこれを修繕して使うと
108 いうことになるのかどうか。私は素人なので分からないですけども、結局、新たに作り直す
109 という事の方が、効率的なのかもしれない。つまり、戻り方とインフラの復旧というのは、非常に
110 不可分に結びついているということなので、今回の部会で言いますと第1部会、生活再建部会。
111 要するにどういう形でいつ頃戻るかということは、皆さんがどういう意思を持っているかとい
112 うことにかかっていますので、パラパラとしか戻らないような状況の下でインフラの復旧を議論

113 するとかなり難しいというふうに思いました。

114 それからもう1点は除染の仕方でありまして、これはこの部会の議題になると思います。双葉
115 町を1つのものとして扱えられないわけです。汚染の非常に高い所とそうでない所とがあります。
116 基本的には汚染の低い所から除染をするというのが基本的な選択になると思います。極めて線量
117 が高い所は、とりあえず自然の減衰に任せる。低い所から除染するというのが方策としては賢明
118 だというふうに思います。そういう除染の地域的な戦略というものをきちっと立てた上で考えな
119 いといけないと思います。先程の議論にありましたように、もう双葉町には戻れっこないのだと
120 という議論は、ある特定の地域の線量の高さを理由にして言ってしまうと身も蓋もないわけであり
121 ます。だからその辺のところ、インフラの復興と併せて非常に大事なところかなというふうに
122 思います。

123 もう1つは仕事の問題で、戻る場合には、要するに戻ってどうするのかという仕事の見通しが
124 なければいけない訳であって、単に除染とか上下水道等の社会資本の整備だけでは戻れません。
125 仕事の再建ということも併せて検討することになるというふうに思いますので、おそらくはそれ
126 も部会のテーマになると思います。

127 というわけで、帰還に向けた条件ということに関してはそんなふうにごの間、現地を見て思っ
128 た次第です。ちなみにチェルノブイリの被災地の場合には住民は避難ではなくて移住しています
129 ので、事柄は極めて単純です。戻るということは基本的に考えていないのです。だから国が土地
130 も家屋も仕事も面倒を見るというのが社会主義ですから、そこは全く異なりますので、あまり参
131 考にはならない。とは言いながら、今度ベラルーシに行って、戻った人もいますので、
132 状況はできるだけ探ってきていたいと思っております。以上です。

133 【木幡 敏郎 副部長】

134 先生、まだ大丈夫ですか。

135 【清水 修二 部長】

136 あと9分程。何か質問があれば。

137 【木幡 敏郎 副部長】

138 そうですね、せっかくですからどうぞ。

139 【西内 芳徳 委員】

140 インフラ・ライフラインについてなんですが、やっぱり上下水道は時間がかかるかと思うので
141 すが、ご覧になったら分かる通り、まず草を何とかするとか、前段でもう、目先、これが優先
142 順位というのがもっと簡単なものがたくさんあると思うのです。例えば綺麗な町だったのに草ぼ
143 うぼうで、道路も寸断されたり、そこをまずなんとかするのが、すぐ簡単にできるのですよね。
144 国の責任、国の金、東電の金でそれはやってもらわなくてはいけないことだし、一時帰宅すらま
145 まならない状態が近々来るのです。そんなふうには、あまり難しいところまでいかない手前で、ま
146 だまだ解決できるものがあると思うんですよ。

147 【清水 修二 部長】

148 この部会の役割は、基本的に住民の見通しを立ててもらう材料を出すということだと思っ
149 すよね。

150 【木幡 敏郎 副部長】

151 そうですね。私も判断材料だと思う。

152 **【清水 修二 部会長】**

153 要するに、もう夢も希望もないのだということになって、議論の結果そういうふうになってし
154 まったらしょうがないのですが、そうではなくてこれくらいのテンポで、これくらいのことをや
155 れば、帰還の見通しは立つのだということです。

156 **【宗像 邦浩 委員】**

157 では、帰還ありきで話していった方が。

158 **【清水 修二 部会長】**

159 前提としてはそれで、議論した結果、難しいという結論は排除しない、ということで、私は考
160 えています。

161 **【木幡 敏郎 副部会長】**

162 最初から結論はいずれにしても、一応できればという思いはみんなあると思う。

163 **【遠藤 直敏 委員】**

164 さっきの話みたいにダメだったら本当に前に進めなくなってしまう。委員が言っていたが何回
165 たっても前に進めなくなってしまう。そうではなくて前に進もうという話の前提をしなくてはな
166 らない。

167 **【武内 裕美 委員】**

168 当然、計画ですから。これについては線量の関係もあって、いろいろ意見がありましたけど、
169 やはり計画づくりのために、戻るための計画をどうするかというのが大事になってくると思いま
170 す。そのための短期、中期、長期ということで、その間にいろいろ除染とかその他の計画が進ん
171 で、状況も変わってくると思いますので、その都度やはり計画を作り直していくということが必
172 要になってくるのかなというふうに思いますので、やっぱり帰還ということを目標に計画は作る
173 べきではないのかなというふうに考えております。

174 **【西内 芳徳 委員】**

175 帰ることを前提という話し合いだと思って私はこれを聞いていました。みんなが1番言いづら
176 いことをはっきり言わせてほしいです。

177 **【遠藤 直敏 委員】**

178 今言った、西内委員のお話だと、常に、帰れるのだと希望の持てるような、草刈でも。そうい
179 うのも我々の中で「いつ帰れんだよ」ということです。

180 **【西内 芳徳 委員】**

181 帰る条件、何点かありますけど、1番肝心なのはやっぱり中間貯蔵施設の扱いだと思うのです。
182 町民で意見がはっきり二分すると思うのですよ。

183 **【武内 裕美 委員】**

184 それから、低い所から除染ということになりますが、線量の高い所は山とか奥地があるのです
185 けどそこからやっぱり雨等で流されて、低い所に流れるということで低い所をやっても高い所の
186 線量がまた落ちてくるという問題もあるので、その辺はどうなのでしょう。技術的に、しっかり
187 とした開発をしないと同じではないでしょう。

188 **【西内 芳徳 委員】**

189 課長の話は、自然の放射性物質は移動しないのだけど、人工物の放射性物質は移動するのです。

190 【清水 修二 部会長】

191 セシウム 134 の減衰は早いですから、セシウムの線量が大体 2 年で半分くらいになる。放って
192 おいてもそういうふうになりますので、無理して被ばくをしながら線量の高い所で頑張るよりは、
193 早く帰還をする地域を定めた上で、そこを優先的にやっていく。今おっしゃったように、山から
194 流れてくるというわけですけども、それは、川内村でもやっていますけども、住宅の裏の山を、
195 20m の範囲で、今、木を切ったり草刈ったりしていますが、そういうやり方をするということに
196 なると思います。ただ農業は、再開できるかどうかというのは、これはかなり難しい問題で、水
197 を使いますので。それはちょっと考えなければいけないと思います。ただ、帰還を早めるために
198 は、線量の低い所からやるというのが原則で、間違いはないと思います。だから、双葉が大丈夫
199 なのかダメなのかという議論をすると、なかなか先が見えてこない。先程の地図を見ても太平洋
200 側はかなり線量低いわけです。行政区画と汚染の広がりとは全然関係ありませんので、そこは細か
201 く見ていかないとはいけません。それから皆さんがどういうつもりでいるかということが大前提
202 になっていると思ひまして、基本的には、全員を戻すということは目標には恐らくはならないだ
203 ろうと思っています。もう移住して引っ越しをしてもいいのだと言う人はそれでいいというよう
204 に考えなければいけないわけであって、事故の前の人口を回復しようとするのは、現実的な目標
205 にはならない。あまりそこにこだわり過ぎると、無理だという話になってしまうと思います。

206 【遠藤 直敏 委員】

207 先生にお聞きしたいのですが、線量の高い地域を通過するのは大丈夫なのでしょうか。イメー
208 ジとして双葉町を考えた場合、双葉町の高いところには、住めないということになるわけですか。
209 あるいはそこは通過できないということになるのか。

210 【清水 修二 部会長】

211 通過するための安全な空間をつくるために、そこを除染するという方法はあります。

212 【遠藤 直敏 委員】

213 そこには住めない。

214 【清水 修二 部会長】

215 しばらくは住めないです。

216 【遠藤 直敏 委員】

217 何十年かは分かんないけど。

218 【清水 修二 部会長】

219 もう少し先に除染の優先順位の問題になると思うのです。放射能の唯一の救いは自然に減衰す
220 るということで、自然の力を借りるというのはね。

221 【遠藤 直敏 委員】

222 そうすると我々双葉町だけじゃダメですよ。隣町もある。あるいは買い物に行くのには相馬
223 まで行かなきゃならないとか。そうするとその交通なんかはね。

224 【清水 修二 部会長】

225 チェルノブイリでも除染を全然してないわけじゃないのです。必要なところは除染しています
226 から。相当低いので、できないことはない。

227 【木幡 敏郎 副会長】

228 若い者の意見としてどうぞ。せっかくですので、心配なこととか、ふるさと再建に向けて。

229 【伊澤 慶昭 委員】

230 前にちらっと話があったと思うのですが、結局、双葉は県外に避難していて他の町とは違う
231 という話で、今まで出てる場ですけど、ふるさとを戻すということに関しては大熊だとか浪江だ
232 とかも似たような、同じような状況にあると思うので、他の町との連携というか、除染の仕方と
233 か、そこら辺は他の町と足並みを揃えるという意味でも、協力するとか、それはまた役場の方の
234 話になってしまうと思うのですがその辺も、他の町と連携し、考えなきゃいけないのかなと
235 いうのがあるのですが。

236 【清水 修二 部会長】

237 それはそのとおりだと思いますね。

238 【木幡 敏郎 副会長】

239 それでは先生、どうぞこれからもまだまだ始まったばかりですので。

240 【清水 修二 部会長】

241 頑張ります。

242 【木幡 敏郎 副会長】

243 よろしくお願ひします。

244 [清水 修二 部会長退席]

245 【木幡 敏郎 副会長】

246 では改めて、事務局にまず資料の説明をお願いします。

247 【事務局 平岩 邦弘】

248 お手元に配布している資料をもう1度簡単にご説明したいと思います。

249 まず始めに資料2。帰還に向けた条件ということで、論点で記載をさせていただいております。

250 今、入り口のところでいろいろご披露いただきましたけれども、この論点ということでこれをベ
251 ースにさせていただいたらどうかというご提案でございます。まず今後の審議の進め方ということ
252 で、前回の3回目の委員会の中でご提案をしておりました、帰還するためにどのような条件が必要
253 か。例えば、福島第一原発廃炉作業の安全性、放射性物質の除去の程度、インフラ・ライフライン
254 インの復旧ということで、今お話があったようなまとめになるかと思ひます。では具体的に、帰
255 還ができるようになるためには、何がどの程度まで改善されている必要があると考えるか。例え
256 ば放射性物質の除去の程度について、どの程度まで空間放射線量が下がればよいか。原子力発電
257 所の廃炉措置の安全性の状況をどのようにとらえたらよいか。インフラ・ライフライン復旧にど
258 れくらい時間がかかると考えればよいか。帰還する際に、住宅をどのように再建していくか。こ
259 れらのテーマが、この部会での論点になるのかと思ひます。

260 なお、資料として、資料3、資料4を付けておりますのでご確認したいと思います。まず資料
261 3-1については、先程の委員会の中で、企画課長の方からご説明がありましたのでこの説明に
262 ついては省略をさせていただきたいと思ひます。また資料3-2につきましても今後の1年後、2
263 年後、5年後、10年後、20年後の推移ということで、国の方で予測したものであります。これ
264 は除染をしないで、自然的な気象条件を考慮した場合の線量予測となっております。それから資

265 料3-3でございますけれども、航空機モニタリングの結果ということで、これは今年の6月28
266 日時点での調査結果でございます。地表面から1m高さの空間線量率ということで、文部科学省
267 の方が今年9月28日に公表した資料になります。こちらの方は参考資料ということでご覧いた
268 だければと思います。

269 また資料4でございますけれども、この資料については、7000人の復興会議、これまで福島
270 から10月の郡山会場までの6会場で参加された町民の方からいただいた意見整理したもので、
271 帰還に向けた条件に関する意見、提案等を抜き出したものとなっております。まず始めに、①と
272 して原発の安全性に関する意見ということで、「安全に帰ることができる地域と言われても、原
273 発の処理が安全に進むかどうか信用できないから帰れない」といった意見や、「現在の福島原発4
274 号機の安全性に疑問がある」ということでそれを不安視する意見。また、「仮の町は原発が収束
275 しないうちは、県内は無理だろう」といった意見が出されております。②として放射線の提言に
276 関する意見ということで、「20m Sv/年以下は安全と国の方では言っておりますけれどもそういう
277 話は信じられない。福島県には帰ってはいけないと思っている」というような不安視する意見が
278 出ております。また、「放射能の影響が心配で帰還する気にはならない」「放射能の完全除染が進
279 まなければ住むことも復興することもできないと思う。」「国と東電が施行することを願っている」
280 「元のレベルに戻してもらわなければ帰れない」といった厳しい意見も出されております。③と
281 して双葉町の復旧に関する意見であります。「学校、病院、福祉、商業施設等が元通りにならな
282 いと安心して生活できない」「今の双葉町に住めないのは水の問題である」といった意見が出さ
283 れました。④として除染に関する意見であります。まず、除染を早く進めてほしいという意見
284 では、「除染をしっかり進めてほしい。町民全体が安心して暮らせる環境をつくってほしい
285 い」という要望が出されております。また「除染の開発を急いでほしい。除染にお金を使ってほ
286 しい」といった意見もあります。試験除染を早めに実践してほしい、といった除染を推進する意
287 見をいただいております。また除染効果に対する否定的と言いますか、疑問視するような意見も
288 出されておまして、「除染では汚染を全て消すことはできない」といった否定的な意見が出さ
289 れておりました。

290 これらが、10月までに開催した7000人復興会議における意見を整理したものでございまして、
291 2ページ以降については、そのカテゴリー別に、出された町民の意見というものをまとめてある
292 ものですので、あとでご覧いただければと思います。まず2ページと3ページにつきましては双
293 葉町の復旧・復興に関する意見をまとめたものであります。4ページにつきましては、放射能の
294 影響について、これをまとめております。また5ページ、6ページについては、除染であるとか、
295 中間貯蔵施設についての意見、提案が書かれておりますので、これについては後程よくご覧いた
296 だければと思います。

297 以上、大変簡単で申し訳ありませんが、事務局の方から資料の説明をさせていただきます。よ
298 ろしくお願いします。

299 【木幡 敏郎 副部長】

300 私自身はこのふるさと再建部会を引き受ける時には、このもらった資料では、まずふるさとを
301 再建するというふうな前提だということであったので、私自身は躊躇したのは確かなんです。や
302 っぱり先だっの先生の話もあって、そういうふうに本当にできるのかという思い。帰りたくな

303 いわけではないと。この再建部会は恐らくいろいろ各地へ行ったときに、若い人もいろいろな
304 方々の意見も、帰りたい意見と帰らない意見といろいろな意見がある中で、皆さん方もたぶん気
305 持ちは同じかなと思います。ただ、この復興というのは総力戦ではないかと思います。それは、
306 双葉町に帰る人も、あるいはいろいろな考えのもと帰らないという道を選んでも、みんな双葉町
307 民が生活できるところがやっぱり復興だというふうには私は思いますので、そのようなことを踏ま
308 えながらこの委員会では話ができればなと思います。まず今、清水先生のお話でも、まず双葉町
309 というものはまだ私たちのふるさとですから少なくとも帰れるようなことになるのかどうか踏
310 まえていろいろ勉強していきたいと思います。

311 今日、いろいろざっくばらんな話もまずはしていただければいいのかなというふうには思いま
312 す。こうでなければならぬではなくて、まず委員の皆様のを、どんなことでも、違う点で
313 も何でもいいですから、まずこのふるさと再建、それから、帰還ということもイメージしたこと
314 に対してどう考えていますか。

315 【武内 裕美 委員】

316 この部会ですが、今後3回開催する予定になっているということなのですが。その中で、部会
317 中の意見をまとめていくということによろしいですね。

318 【木幡 敏郎 副部長】

319 まとめられるかどうかというのが、私もちょっと実は。まとめる方向ではいけばいいと思
320 うんだけど、大変重要なテーマだと私は思っている。簡単に、帰る、なんて結論を私は出せ
321 ないですよ、私自身が。どうですか、皆さん。

322 【西内 芳徳 委員】

323 帰るか帰らないかはそれぞれが決めることで、帰る地盤だけは何とか我々で案を作るだけでも。

324 【木幡 敏郎 副部長】

325 ですからそのようなことに対して、やっぱり意見を、帰るか帰れないかは個人の判断だ。しか
326 し、町個人の判断だけど、町が結論を出すということに対しては相当いろいろなものが予想され
327 ますから、町民からも、あるいは、何というのかな、大きな動きがあるので。ですから簡単に結
328 論を出すのは、私は難しいので、そのためにもっと勉強する機会もあってもいいのかなというふ
329 うに思っているのです。だから、その3回だけで済まない場合もあるのかなというふうなことで、
330 時にはもっと大学教授の話とか専門家の話というのも踏まえて私はやりたいと思っているのだ
331 けども、そんなことはどうですか。そういうことを踏まえて、これからあと何回とは言えなくて
332 も、少なくとも皆さんのいろいろな時間もとっていただいて、やっていければなと思っているの
333 ですが。この3回で結論付けるかどうかはちょっとまだ分からないというところだけは私は思っ
334 ているのだけど。結論付ける。結論付けられる。

335 【西内 芳徳 委員】

336 方向付けなのですけど、例えば帰れませんというのを決める会だったら厳しいと思うんですよ。
337 死刑宣告をしる、という集まりになっちゃうから。帰れる場を残すという会だから。

338 【木幡 敏郎 副部長】

339 帰れるというのは、何をもって帰れるというふうにするのかというその根拠が必要なのです。
340 先程のこの50とか20が環境省では20から7になるなんていう大変楽観なことが出ているでし

341 よ。これ本当かと私思っているのですよ。これなら帰れる。どうですか。でも本当にそのデータ
342 が大丈夫なのか。

343 【西内 芳徳 委員】

344 否定してはダメだと思うのですよ。帰るか帰れないかは町民が決めることで、町を存続させる
345 ことを意見として出す会にしないと。

346 【遠藤 直敏 委員】

347 この場は、帰還に向けた条件をどうするかという話なんだよ。

348 【木幡 敏郎 副部長】

349 私、難しいようだけど、3回にこだわらないというのが私の考えだということだけ理解してい
350 たらきたい。

351 【伊澤 慶昭 委員】

352 ただ、私思うのは、線量の問題は私たちが勉強しても所詮私たち専門家じゃないんで、判断で
353 きないと思うんです。

354 【木幡 敏郎 副部長】

355 だから勉強するということはできないかな。専門家でないから、先生の話聞く機会を多くす
356 るとか。

357 【伊澤 慶昭 委員】

358 専門家でも難しいと言われている線量、放射線の問題で、私たちが勉強しても所詮いけるとこ
359 ろは限られていると思うんですよ。だから線量はだいたいこの辺になるまでというのは、それは
360 専門家の評価にまかせて、それ以外でも私たちが決められることがあると思うんですよ。

361 【木幡 敏郎 副部長】

362 分からないでもないけれど、その除染のあり方も効果があるとかないとかというふうないろい
363 ろなデータもあるんだよ。だからそのへんも聞いてもいいのかなと。先だつての木村先生のように
364 除染のあり方も、例えば150年帰られないけれども何もしないなら帰れない。しかしそれは除
365 染のあり方で、やり方もいろいろあるのだよというようなことを私としては、私たちとしては、
366 それはやっぱり知っておくべきだと。私の気持ち分かるかな。

367 【伊澤 慶昭 委員】

368 知っておくべきというのは。

369 【木幡 敏郎 副部長】

370 そういう意味では、委員として結論を出す。出した時には、やっぱりどんなことをやったんだ
371 と言われた時に、いろいろな人に、答えられるようなある程度の勉強会だけはしたいな、という
372 のが私の考え。

373 【伊澤 慶昭 委員】

374 私が疑問に残っていたのは、ずっと放射能のことばかり考えているので、それだけに突出して
375 考えるのではまた別の話じゃないのかなと思って。それであれば、もうもっと完全に放射線に関
376 してやるべきであって、これはなんというか、元の双葉町再興に、復活させることに関しての話
377 し合いなので。それだけのために話をするのであれば、本当に専門家の集まりで評価してもらっ
378 たほうが早い話なんじゃないかなと。ただ、私たちは地元の意見を話す人たちだと思うので、そ

379 ういう専門家たちじゃ分からないところに目を向けて拾い上げるのが私たちのやるべきことじ
380 ゃないのかなと思ったので、ちょっと疑問に思ったのですよね。

381 【木幡 敏郎 副会長】

382 ここにもあるように、この位置付けとって、いろいろなポイントがあると思うので、条件と
383 いうのは放射能だけではない。先程言ったような生活に密着したもの。それらを踏まえて何回か
384 で結論を出すというふうなことですから、それだけではないけれども1つ1つが、より確かない
385 ろいろな話をやっぱり私たちは聞きながら出したいなということ。

386 【武内 裕美 委員】

387 ただ、条件的には、やっぱり放射能だと思うんです。これ、地震・津波だけだったら皆さん町
388 に残って我々も復旧をもうやってると思うんです。放射能があるばかりにできないということ
389 で。ただ、やっぱりそれをするために放射能がある程度どのくらいになったら復旧・復興にいけ
390 るんだというのがやっぱりそもそも問題になってくると思うんですよね。それ、確かに伊澤委員
391 の言うように、専門家が分かんないんですけども。ただやっぱり国で言っている、国というかそ
392 の法律で言っている1m Svとありますよね。管理区域内の。そこでは飲み食いしてはダメだとあ
393 りますから、果たしてそれを言ってるのに、20m Svの中で生活しろというのは、果たして今後の
394 結果を見ないと結論はできない部分なんですけど、それを吞んで生活していこうと、20以下で
395 ね、ということになるのかどうか。

396 【伊澤 慶昭 委員】

397 その辺もたぶん最後、清水委員が残していったような、全員が住むような選択にはならないと
398 思うんですけど、やっぱりそういう疑問が残るんだと。

399 【木幡 敏郎 副会長】

400 そういうことですよ。ですから、私たちは、他の委員会はともかくも、少なくとも何回かは勉
401 強したいなと思うわけです。そういう意味で、その時には、いろいろ勉強会やりたいなという
402 きには、1つ便宜を図ってください。

403 【武内 裕美 委員】

404 計画を作らないとね。それすると計画が難しいんでね。

405 【遠藤 直敏 委員】

406 それはもう別の問題としてやるんですよ。

407 【武内 裕美 委員】

408 それはそれで。

409 【遠藤 直敏 委員】

410 ということは福島県ではそういう20m Sv前後で生活している地域はあるんですか。事務局つ
411 かんです。

412 【事務局 平岩 邦弘】

413 それはないですね。

414 【西内 芳徳 委員】

415 これ電卓あったら教えて欲しいんだけど、霊山こどもの村の辺り0.9なんぼで平気でみんな生
416 活してんですよ。郡山よりも高いなと思って。

417 【木幡 敏郎 副会長】
418 それは分からない。そこはわかんないところもあんだ。
419 【渡辺 勇 委員】
420 0.9 μ Svですか。
421 【西内 芳徳 委員】
422 0.9 いくつかのところでみんなソフトクリーム並んで買ったりなんかしてるから。
423 【木幡 敏郎 副会長】
424 福島の渡利高いでしょ。
425 【武内 裕美 委員】
426 国の言ってる基準からいうと 5m Svなの。5 倍すればいいんですよ、大体。だから、1 m Svと
427 いうのは 0.19 なんですその 5 倍で、1m Svだから。マイクロで 1 時間あたりね。それを年間換算
428 すると 5 倍、5 掛ければ m Svになりますから。
429 【木幡 敏郎 副会長】
430 毎時 0.19 μ Sv。
431 【遠藤 直敏 委員】
432 そうすると年間線量がどのくらいになるの。
433 【木幡 敏郎 副会長】
434 だから 5m Sv。
435 【武内 裕美 委員】
436 20m Sv以下。
437 【西内 芳徳 委員】
438 20 までないんですね。
439 【遠藤 直敏 委員】
440 ということは福島県でもそういうところはあると。
441 【木幡 敏郎 副会長】
442 いっぱいある。
443 【遠藤 直敏 委員】
444 我々どうするのか。
445 【木幡 敏郎 副会長】
446 だからそういうふうに捉える人とか、だから私もなかなかこれ難しいんだけどね。だから考え
447 方はいろいろなので、それでもいい人と、私らはこれから、責任というのかな、お前ら何言っ
448 て最後はそれは委員会としてはやったんだけど、やっぱり少なくとも双葉町の将来はこういうと
449 ころにつくりたい、だから来てくださいよと言えるような、数字も含めてやっぱりやっていき
450 たいと思うから、除染のあり方とかね。それから単なる暮らしだけでは、暮らしなんかは、住ま
451 なければ暮らし成り立たないんだ。だからやっぱりまずは暮らすことが安全なところだと私思っ
452 てるから。だから、除染はどうだとか。そういう勉強会をしたいなと。
453 【武内 裕美 委員】
454 町長が言われるのは、いわゆる復興よりも町民の健康を守るのが第 1、という発想の下に、で

455 きるだけ放射能の危険がないように遠くの地域というのは、これ全町民の方に理解難しいところ
456 があるんですけど。そんなことで来たんで。ただ専門家の先生に言わせると、これからだと
457 うんですよね。出るのは。今日もそういうような話もありましたけれども。だから、「3年後あ
458 りから」というようなこと言っているのですけど。

459 【遠藤 直敏 委員】

460 病気がね。

461 【武内 裕美委員】

462 はい。難しいんですがやはり。

463 【木幡 敏郎 副部長】

464 そうなんだな。何かちょっと申し上げたいこと、まず最初にこんなこと心配だとかこの部会に。

465 【宗像 邦浩 委員】

466 帰還前提で話をするのであれば、今、郡山から 288 号通って双葉に入って、墓地の修繕工事で
467 入ってます。それでやっぱり、その途中の田村市あたりの除染を見てみるとやっぱり 288 号、
468 20km 圏なんですかね、消防署から双葉よりにかけて、道路から 20m くらいの範囲で除染はや
469 ってるんですけども、田んぼ、畑等を見るとこう、混ぜて終わっているのかなというような。
470 それに関してはちょっとこれでいいのかなというふうな思いはありますね。

471 【木幡 敏郎 副部長】

472 除染の仕方な。

473 【宗像 邦浩 委員】

474 はい。

475 【木幡 敏郎 副部長】

476 それも勉強だ。

477 【宗像 邦浩 委員】

478 表面を削る等の作業はしてないですよ。

479 【武内 裕美 委員】

480 反転耕というんでしょ。

481 【宗像 邦浩 委員】

482 ですかね。

483 【武内 裕美 委員】

484 ただ土を混ぜるだけ。

485 【宗像 邦浩 委員】

486 混ぜて、線量的にはどうなのか分かんないですけど、双葉でそういうことをやったんでは、た
487 ぶん、もう本当に住めない。住めないというか農業はできないと思います。

488 【武内 裕美 委員】

489 土をはぎ取る、すぼっと取らないとね。

490 【宗像 邦浩 委員】

491 まず、墓地に入っていくにしても何にしても草刈りから始めてるんですけども、やっぱり除
492 染をやるのであればまず草刈りからかなということですよ。あとは、道路に関してはや

493 っぱり、場所によっては、震災前よりひどくなっているところもあると思います。あと、地盤沈下
494 もそうです。そういうふうなところは、頻繁に入って行って目につくことだと思います。あとは、
495 敢えて言うなら、牛の群れがすごいなという感じで。牛はもう結構いますね。

496 【木幡 敏郎 副部長】

497 この部会での思いとかいろいろこれからどうあるべきかということ。

498 【遠藤 直敏 委員】

499 私は、双葉町の住民が、今まで震災前に暮らしていたような双葉町のために我々は条件整備を
500 していかななくてはならない、ということになると、まずやらなきゃならないのは、今現在、計画
501 に載ってない双葉町のお掃除。掃除をしていかななくてはならないだろう。掃除というのは除染も
502 含めて全てです。あるいは倒れてる建物が道路に来てるとか、あるいは倒れたものの下敷きに
503 なる荷物を運ばなきゃなんないとかそういうものを今、やってかなきゃなんない。これは誰
504 にやらせるかという話ですよ。東京電力にやらせるか、あるいは国にやらせるのかという話。
505 これを我々としては、国、あるいは東京電力の方に働きかけ、やらせていかなきゃならない。そ
506 こまでの力を持った形にしていかなければならないと私は思っていたわけですよ。もう1つは先
507 程申し上げたように、インフラの整備ですね。我々が入ったときに、生活の場がない、給料とる
508 ところもないといったときに、そうではないんだと。国、あるいは東京電力の方で我々が生活で
509 けるような、そういう採用なり企業を持ってくるように、そういうものを要望していかなきゃな
510 らない。我々の手で、国、あるいは東京電力の方に要望、やってもらえる方向で陳情していく。
511 これが我々の仕事じゃないかなと。こんな大きなことを考えちゃったもんですから。これが帰還
512 に向けた条件の我々、基礎となる仕事をしていると考えております。

513 【木幡 敏郎 副部長】

514 確かにもっともで、それに対しては今後どうするというのもこれからのまた勉強ですね。

515 【西内 芳徳 委員】

516 条件がいくつか提示されておるんですけども、是非とも入れてほしいのは、中間貯蔵施設絶
517 対反対としてほしいんですよ。というのは簡単に反対というんじゃなくて、賛成、反対じゃなく
518 て、最終処分場を明示させた上で受けるとか、最後の最後、そこを条件に必ず組んでほしい。で
519 ないと、どうも中間貯蔵施設の受け入れと賠償がセットになっていて何かおかしい、そんなもん
520 受けなくたって、その賠償を受ける権利があるわけだし、そういうものとセットにしてほしくな
521 いと思うんですね。自分は去年の早い段階で民報の委託を受けて、各自治体で中間貯蔵施設のよ
522 うなものをそれぞれがやないと何でもかんでも双葉・大熊のこの辺に持ってこようとするとう
523 長期化しますよって簡単にものが運ぶ、決まらないですよという、そのとおりのことになってきた
524 なあと。みんな何かどうする、みたいな考えになって。どのくらい賛成でどのくらい反
525 対か町民の意向調査もしてほしいですね。数字として。個人、私的には絶対反対、100%反対
526 だから。自分が100%正しいと思ってるわけではない中でその考えです。

527 【木幡 敏郎 副部長】

528 この点については、私も今日言わなかったけど、国がこれをやるには今後、説明会を開くでし
529 ょう。だからこの中間貯蔵施設というもの、とにかく、この今の除染とそれから今の処理をしな
530 いと、もう復興が進まないのは間違いないですよ。いつまでもあれをどこに置かかということ

531 を自分たちの町のものですらもどこに置くかを決めないと住むことに対してはどうなんだと常
532 に心配が先立つもんで、これについてはやっぱりもっと説明。あと、これの勉強会は私、やって
533 もいいと思ってんだけど、中間貯蔵施設の姿はどうなんだと。やっぱり町民の皆さんにとって中
534 間貯蔵施設は大変恐ろしいものであるように思うけど、私はどんなものなのかというのを知りな
535 がら、それはやっぱり検討するときは検討する、どうぞまず時間もわかんない、また改めてもい
536 いです、どうぞ。

537 【伊澤 慶昭 委員】

538 先程言ってたように、除染の話は1番メインに来ると思うんで、やっぱり誰にやらせるかとい
539 うのは、1番しっかりさせておかなければと。確実に除染することは間違いないと思いますので、
540 誰にやらせるのか、それは方針決める上で大事になるのかなと思う。はっきりさせて決めていき、
541 考えておいていいのではないかと思います。

542 【木幡 敏郎 副部長】

543 とりあえず今のところはそんなところかな。

544 【武内 裕美 委員】

545 計画づくりという観点からすると、当然、安全な未来があるというのが条件だと思うんです。
546 大きなテーマとして安全であると。全ての住人にね。そのための課題といいますか解決すべき問
547 題については3つ。1つは、いわゆる環境が損なわれていないことですね。これは放射能の問題
548 も含めて、環境が損なわれていないと。もう1つは社会において正義が成り立っているというよ
549 うなことで、これについては、放射線の問題等々、今、町の方でもしていますが、それが法に基
550 づいた中できちんとされていくということと、あと経済が健全だというような3つのキーワード
551 というのがあるのかなと思います。それが全てそろえば、持続可能な町と、安全な町ということ
552 になるんだと思いますので、これをどのように解決していくかということをお話し合っていくべき
553 かなというふうに考えておりました。

554 【木幡 敏郎 副部長】

555 大変、勉強していかなくてはいけないと思います。

556 【渡辺 勇 委員】

557 「帰還に向けた条件について」ということで論点を示されて、その帰還というような言葉のイ
558 メージがどの辺の生活レベルを指すのかな、というふうなことで、最初ちょっと考えたんですけ
559 ど、さっきから皆さん言ってるように、いわゆる社会的な安全、病院とか警察なんかも含めて社
560 会的な安全。それから、先程武内委員が言った環境的な安全。それからやはりある程度クリアさ
561 れないとそれに向けたその生活レベルの基準というのをある程度つくなくちゃいけないのか
562 なというふうなことも、この会でそこまで決めるかというところであれですけども。ただ、条件とい
563 うふうなことで提示された以上は、これ以上の、あるいはこれ以下だったらダメだよみたいなラ
564 インというのはやっぱり、何項目か出した方がいいんじゃないかというふうに思います。例えば
565 さっき言ったように、環境的な安全の確保、それから社会的な安全の確保、さっき木幡副部長
566 が言ったように「買い物をするのに1時間かけて買い物に行って、帰ってきたら町中真っ暗だっ
567 た」ではちょっと生活ができないわけですよ。しかもその水は流せない、水は飲めない、そうい
568 った中で「さあ帰れ」と言われても帰れないわけですよ。どの辺までこの、過去の状態あるい

569 は未来に向けたどの辺のレベルまで戻せるのかな、ということも考えなくちゃいけないのかなと
570 考えます。

571 【木幡 敏郎 副会長】

572 つまり安全とか、それは住むということを踏まえて、除染というふうな放射能の安全というの
573 が一番だということだな。人は、そこに集まってくるから。

574 【遠藤 直敏 委員】

575 だから我々がその人間として、双葉町で住めるような条件整備をしてやるということですから
576 衣食住がしっかり整うような条件整備を提起すればいいということ。だから我々行って飯食う、
577 飯食うためにお金どっからとる。その時にちゃんと条件整備をしてやるような、例えばさっき申
578 上げたような、「向こうへ研究施設をつくってくれよ」とか「何万人雇用できるような企業を
579 つくってくれよ」とか。こういうものを国とか東京電力の方に掛け合う、そういうものをつくっ
580 ていかないと。「できましたけどどうしますか」と絵に描いた餅にならないような形のものを我々
581 としては、つくってやっていかなきゃいけないんじゃないかなと思ってるわけです。だからそれ
582 は誰がやるかが問題なんです。誰かそこに行ってやって。

583 【渡辺 勇 委員】

584 だからその整備が10年後、20年後はまず無理というのは、みんな分かっていると思うんだけど、
585 50年後でないと無理だろうというふうなことであれば、それを基にした計画につながってくる
586 んで。

587 【木幡 敏郎 副会長】

588 こう話聞いてみると、いろいろ各自の意見もそうだけどやっぱり放射能だよ。これをきちっと
589 まずやる、除染の仕方が、国にも、いろいろそれから研究者にも勉強してみたいな。本当に20
590 が7になるのか、3年後、4年後。本当になんのかとか。根拠はなんなんだと。それをするなら、
591 私たちはもう20年待たなくても双葉町に帰れる。帰りたくないという人、誰もいないから、会
592 社も来てくださいとか、言えるんだけど、まだそこまで私らも、みんなも言えない。

593 【遠藤 直敏 委員】

594 木村先生の話だと150年帰れないとなると、事業が進まなくなっちゃうわけですよ。だから
595 我々が双葉町の人間として一致団結して帰るんだ。この方向付けのためにもやっぱり、だから希
596 望を持たないといけない。

597 【武内 裕美 委員】

598 だから、明日にでも技術開発されて、一発程度でバーンとやれば消えるんだということになる
599 とそれでも戻れるんですよ。

600 【西内 芳徳 委員】

601 遠藤委員にすごく賛同する部分なんですけど、今、生きている双葉町民、現存する人の心のよ
602 りどころのためというのも割り切っていると思うんですよ。原発立地市町村が消滅するリスクが
603 あるというのは、たぶん国もやらないと。だから帰そうという方向しか発想がないと思うんです
604 けど、全国の立地市町村が見てると思うんですよ、双葉の動向を。だから帰れる方向に持って
605 ってるというだけでもうだいぶ違うと思うんですよ。現実無理でも、150年後でもいいから。

606 【渡辺 勇 委員】

607 いやだからそれをやろうとしてるのが、どっかの隣町だから。
608 【西内 芳徳 委員】
609 隣というのはどっちですか。
610 【渡辺 勇 委員】
611 それははっきりいうとあれだけど。現場事務所、あるいはそこにある程度のあれをつくってそこ
612 から広げていこうという話ですけど。
613 【遠藤 直敏 委員】
614 浪江なら浪江でもいいんだけど。
615 【渡辺 勇 委員】
616 誰もついてこないということなんでね。
617 【伊澤 慶昭 委員】
618 今回、最初の根本の部分に戻りますけど、帰るとした場合の計画だと思うので。
619 【木幡 敏郎 副部長】
620 場合だよ。だからその部分を私らは努力したいと思ってんだ。
621 【伊澤 慶昭 委員】
622 そういう計画を上げるためにやってるんで、そこで折れるわけにはいかない。
623 【木幡 敏郎 副部長】
624 だからそのために、いろいろな専門家を呼んでとか。ただ中途半端なこんなことだけでは、「あ
625 あいいでしょう」なんていう結論は出せない。
626 【西内 芳徳 委員】
627 結論を出す必要はないと思うんです。
628 【木幡 敏郎 副部長】
629 もちろん、けど書かなくちゃならないからね。
630 【西内 芳徳 委員】
631 帰れる条件はこれ、これ、これというのを示すところまででいいと思うんです。線量でもいい
632 し。
633 【伊澤 慶昭 委員】
634 示す、そうですね。帰れるためにはこうしなきゃいけないんです、というのを提示するだけで
635 いい。だから帰れませんというところまでは必要ない。
636 【西内 芳徳 委員】
637 あとは本人が。
638 【木幡 敏郎 副部長】
639 それは、おそらくこの委員会で帰れないなんていうことはやり過ぎだから。それは違う。やっ
640 ぱりいろいろなデータを委員が、しっかりとやっぱりまず呑み込んで。誰さんだったら、誰さん
641 はどうだくらいの気持ちをもって、やりたいなと思う。とにかくまずこれ第1回目は、そういう
642 帰還の条件といってもいろいろ、清水先生の話にもあるように、衣食住もあっけど、やっぱり1
643 番は人が集まるには安全なところでなければ住めないというところでの、今の双葉町の現状はこ
644 のとおりですね。このいろいろ資料をもらってるから。かなり高いところ、低いところあるけれ

645 ども、全般に高い。その中で双葉町としてやるには、放射能の除染だと。こういうふうなことに、
646 これからはどういうふうなのがあるのかなということも、大きなテーマだな。あとは、今言った
647 中間貯蔵施設なんかもたぶんいろいろな場で、これネックに引っかかってくんのかなと。これに
648 ついてもやっぱり私らも中間貯蔵施設とはどういうもんだか皆さん知らないでしょ。ある程度。
649 それでもって、怖いもんだとかね、あったら困るんだとか、でなくて、中間貯蔵施設のやっぱり
650 勉強もしたい。

651 【西内 芳徳 委員】

652 あれがあって困る理由というのは、北西の方向にいったる汚染物質を全部双葉に持ってくる計
653 画ですよ。そうすると、双葉のあそこの予定地よりも濃いものが運ばれる可能性が非常に高い
654 と思うんですよ。それが嫌だなと思う。

655 【木幡 敏郎 副部長】

656 だから、中間貯蔵施設というのはどういうもんだということをやっぱりちょっと知るために、
657 勉強したいと思ってる。

658 【遠藤 直敏 委員】

659 それは誰が、教授か誰か呼んでくる。

660 【渡辺 勇 委員】

661 環境省あたりから来てもらうのが一番。

662 【木幡 敏郎 副部長】

663 私らはそれをある程度知っておかなくちゃなんない。単に運ばれっからダメだではなくて。ど
664 ういう施設なんだかいろいろなことを。

665 【西内 芳徳 委員】

666 なんか資料で写真、絵は付けてもらってましたよ。

667 【木幡 敏郎 副部長】

668 だからそんなことだけで、そのシートは、早いよ。

669 【渡辺 勇 委員】

670 福島環境事務所あたりに言えばたぶん。

671 【木幡 敏郎 副部長】

672 委員会として、議会では勉強会やってんだ。

673 【武内 裕美 委員】

674 ただ、その提言はしても、委員全部で聞くというのは。

675 【木幡 敏郎 副部長】

676 そういうことにしてください。こういう委員会があったから。これ、議会でも町でも。

677 【伊澤 慶昭 委員】

678 全員に説明してもらった方がいいと思うんですよ。

679 【木幡 敏郎 副部長】

680 だから、我々の部会では、常にそういうことを投げかけましょう。他の委員も同じだから。

681 【武内 裕美 委員】

682 基本的な問題だし、ただ国の方でもまだ、具体的にどうというのはないんですよ。地点示した

683 だけで。この間の新聞記事では、基本設計を町に何の連絡もなく、つくるといって新聞記事
684 に載ってましたけど、あれも何もないんですよ。ただ国の方としても具体的に説明をしていくた
685 めにも、こういった形のもので、どんなものをつくるのかというようなことを示していきたいと
686 いうことでまずは基本設計をつくって、説明に歩きたいというような趣旨のようですけど。

687 【遠藤 直敏 委員】

688 そんな勉強会していったら、双葉町は進んでるな、すごいな。

689 【西内 芳徳 委員】

690 中間貯蔵施設とはどういうものかというのは、別のところで調べてみたりはしてるんですけど。

691 【武内 裕美 委員】

692 原因とかは別にして、どんなもんかという勉強をね。それはいいんじゃないでしょうかね。

693 【西内 芳徳 委員】

694 最終処分場というのは調べたことありますよ。フィンランドのオンカロという。あれも全部見
695 てんですけど、全然状況が違うんですよ。10万年地層が安定している所じゃないとダメだと
696 いうのと、あんな1000年に1度くるあんな所にそんなものを置くというのは考え方の開きに。

697 【木幡 敏郎 副部長】

698 NUMO なのそのいろいろなあれをしてっけども、PR はしてっけども、それだけ原発という
699 のは、最初と最後がきちっと、なかなか難しいところなんだけど。今、現実だから、私らは。

700 【遠藤 直敏 委員】

701 ただ東京電力には災禍をもたせなきゃダメだという話よ。災禍持たしてやらないとあいつらは
702 あいつらのというのはおかしいけど。俺ら、関係ねえみたいな話言っつから。

703 【木幡 敏郎 副部長】

704 いやいや、そんなことは、言わせておくあれはねえけども。

705 【遠藤 直敏 委員】

706 やっぱり責任というものを持たせてやらないと。「あんた悪いんだよ」と。

707 【木幡 敏郎 副部長】

708 そうするとあとは資料4にありますように、これは住人の声ですから。いろいろ言われてると
709 ころがあるということの記録なんですけど、本当に私たちが帰ることができるかどうかと
710 いうのはこれからこういう問題にも取り組んでいかなきゃなんないのかなと思うんですよ。それ
711 は原発の、福島原発の方もしっかりしてもらわなきゃなんないし、それから帰ったところで、4
712 号機が今度爆発なんてしないだろうというふうに思うし。そういうことも1つ1つやってもらっ
713 て初めて安心して暮らせんだというところしていきたいもんだなと思いますね。原発の安全性は今、
714 経産省が、取り組んでると言ってますけどね。40年とか何十年とか言ってますけどね。あと放
715 射線の低減に関しては、私たちも勉強すべきだと思うんです。

716 【武内 裕美 委員】

717 やっぱりこの帰還に向けた条件というと、大きな枠組みの中でやっぱり、安全な未来というの
718 がやっぱり大前提。

719 【木幡 敏郎 副部長】

720 大前提だ。それをもって帰ると。

721 【武内 裕美 委員】
722 帰るといことですね。
723 【木幡 敏郎 副部会長】
724 だいたい書くことは、そういう方向になるんでしょうけれど、私たちも勉強したいと思います
725 ね。
726 【武内 裕美 委員】
727 そうですね。併せてだと思ひます。
728 【西内 芳徳 委員】
729 逆になっちゃったけど、条件は厳しい方がいいですよ。帰る条件というのは。
730 【木幡 敏郎 副部会長】
731 そうだと思ひから。
732 【西内 芳徳 委員】
733 それを判断するのは町民それぞれで。
734 【遠藤 直敏 委員】
735 それでいいんだ。福島県の他の住んでる人らが、生活今やってるわけよ。その中で双葉町だけ
736 が、本当の綺麗な空気の中で、生活したいとそこまで言うのか、あるいは他の市町村と同じくら
737 いの汚染だったらいいのか。というところでは、納得のいく、町長が 1m Sv以下にいかないから
738 ダメだという結論。
739 【木幡 敏郎 副部会長】
740 いやなんて言ったらなんだけど、住民はそんなこと考えてないと思ひよ。安全な所に、子ども
741 たちとともに住みたい、住ませたいと思ひてるよ。
742 【遠藤 直敏 委員】
743 安全という話になってくると、双葉町でなく他の郡山とか福島とか、いろいろ今住んでる人が
744 いるよね。その辺の人らはどのくらいの線量の中で生活してるの、という話も並行して話をして
745 いかないと、双葉町だけが。
746 【木幡 敏郎 副部会長】
747 双葉町だけがなんてそういうことではなくて、双葉町も将来は合併するかも分かんないし、存
748 続できないかもしれないし。ということは双葉町だけがでなくて、おのずと自治は、住民の集ま
749 るところに自治ができるわけだから。自治は、いや人が集まらないところに双葉町もないんだ。
750 【遠藤 直敏 委員】
751 俺が言ってるのは条件提示の話をしてんだよ。条件提示が、他の地域がこれくらいの線量の中
752 で生活してんだということも並行して話をしなけりゃダメですよ。
753 【木幡 敏郎 副部会長】
754 それは私らもよく言われるよね。
755 【武内 裕美 委員】
756 だから安全な未来のためには、どういうことが考えられるかということが聞きたいわけですね。
757 はじめ言ったように、環境とか経済とかいうのが出てくるわけですね。そのためにはどういうこ
758 とを克服しなきゃならないのか、体系的にまとめていけばある程度出てくるんじゃないでしょう

759 かね。

760 【遠藤 直敏 委員】

761 だから、基本的なデータは掴んでるわけでしょ。例えば郡山あたりだと年間何 m Svだとか。

762 今現在。

763 【事務局 平岩 邦弘】

764 実際測っています。

765 【木幡 敏郎 副部長】

766 数字は出てるよね。

767 【西内 芳徳 委員】

768 福島支所の職員なんかは1週間に40 μ Svずつ被ばくしているという現状を聞くと、果たして

769 そういう所でいいのかなと心配になっちゃうんですよね。ただ郡山市には人が住んでるわけだから

770 言うに言えないし。

771 【木幡 敏郎 副部長】

772 双葉町が仮設に、渡利にもかなり高いと言われていたところに住んで、そこから全国に散ら

773 ばってる自主避難の人もいて。

774 【西内 芳徳 委員】

775 それ、やっぱり渡利も相当、子どもがいる家庭は不安を抱えているみたいで、学校がもうすご

776 い減っちゃってるんですよね。それで避難している双葉、浪江の子は渡利の学校にバスで乗せら

777 れてくる。そういった現実がやっぱり聞こえてきたから。仮設のそばの学校には行けないんです。

778 渡利に連れてかれる。本当にそれでいいのかなと、疑問だらけですよ。

779 【木幡 敏郎 副部長】

780 疑問だらけだ。疑問だらけなんだけど、あとはそれだけ放射能を恐れるというんだから、その

781 基準がまだ、考えすぎなのか、まあまあなのかという人たちの動きだと思うよ。

782 【西内 芳徳 委員】

783 最近、数字狂ってる時もありますよね。線量計持って福島県によく行くんですけど、何で俺の

784 と新聞報道、モニタリングポストが違うのかなと思ったら、モニタリングポストが間違ってた

785 という話でしたもんね。ひどい話だな、本当。

786 【遠藤 直敏 委員】

787 間違ってるというのは機械が間違ってたのか。

788 【西内 芳徳 委員】

789 そう、1割少なく出たという話で。

790 【木幡 敏郎 副部長】

791 新聞に出てたな。そうだな、本当に。いろいろなかなか面倒な、本当に難しいところ含んだこ

792 のふるさと再建部会だけれども、時間もだいぶ近づいてきたので、ある程度まとめるとすれば、

793 皆さんの、出来るだけ、ふるさとに帰りたいという、そのためにどのようなことがあるのかとい

794 う、いろいろな条件は出されたので、それらについて、あとで整理をしてもらいたいと思います

795 けれども。

796 【事務局 平岩 邦弘】

797 今、出たその課題等については論点を整理して次回の部会に出したいと思います。

798 【西内 芳徳 委員】

799 目的を示してほしい、示すべきだなと思うんですね。町民の心のよりどころのため、という

800 感じで。なぜこれをやるかという、目的がないと意見もしづらいとこがあるんで。

801 【武内 裕美 委員】

802 若い方は町のこの方針というか、見通し、どうなんだというのが欲しいというけども、伊澤委

803 員、どうかな。

804 【伊澤 慶昭 委員】

805 若い人なんか細かいことはいいから、どういうふうにするんだというのが1番気になってると

806 思っ。詳しいことはいいから、どうするんだというのが1番気になっている。何のために何を

807 目指していくのかというのは提示するべきだと思います。

808 【武内 裕美 委員】

809 そういのが見えるようにしたい、してもらいたいというような意見があるようですから。

810 【宗像 邦浩 委員】

811 あと、町としては、除染しようという予定とかは全然ないんですね。

812 【武内 裕美 委員】

813 今のところは、そういったことはさっき宗像委員も言ったように、あんな田んぼを反転した

814 けでは、効果がないと。それで低いところをやっても、高いところからまた流れてくるというよ

815 うなことで、同じだ、ということなんですけど。

816 【渡辺 勇 委員】

817 今年の夏前からの高速道路、常磐道の部分の試験除染やって、場所によって、やっぱり半分

818 に下がるところと半分も下がらないところがあって、その結果を踏まえていよいよその常磐道に

819 限って、ある区間、本格的な除染に入りましようかというのが今の状況なんですよ。要は山の間

820 もあれば、本当にコンクリートのところもあるし、だからその結果もある程度今後の除染には参

821 考にはなると思うんですけど。ただ、それも周囲にどのくらいの影響を与えるかというのを見て

822 て、結構高速道路って山に挟まれた所と橋上の所とあるから、それぞれの、富岡から大熊に、双

823 葉にかけて、段階的にはやってくると思うんですけど。あと住宅に関してはよその市町村でやっ

824 たやつの結果というのをやっぱりいろいろ参考にしてどの辺がいいのかというのを。

825 【宗像 邦浩 委員】

826 田村市あたり見てるとその双葉、30km 圏内ですか。その所を見てると、住宅を拭いてるん

827 ですよね。水を使わないで。

828 【渡辺 勇 委員】

829 水を使うと周りが汚れる。隣の家から文句がくる。下流の家から文句がくるんで結局。

830 【宗像 邦浩 委員】

831 拭いて終わりなんですか。

832 【渡辺 勇 委員】

833 拭いて終わりなんです。これが本当に。

834 【宗像 邦浩 委員】

835 いや、酷いだろうなと思って見てました。作業員の人らも。

836 【渡辺 勇 委員】

837 人手ばかりで。家の中、あの辺はさほどじゃないと思うけど、双葉、大熊は家の中まで高い
838 から、家の中を拭き上げるというのも大変なんでね。実際、中には諦めてみんな弁償してもら
839 うという騒ぎの人もいるくらいだから。実際、除染にかかった場合に、例えば公共施設やっても、
840 周りの、本当に住民のところの可能性というか将来がないと、全くできないというか。町長はそ
841 こで、例えば1回、2回、3回、4回って何度も繰り返してやるんだったら、本当にさっき総務
842 課長言ったように、効果的な1回、2回で、終わらせたいという頭があるみたいですね。手作業
843 でやってたら、何億あったって終わらないですよ。

844 【宗像 邦浩 委員】

845 でも帰還が前提にあるわけですから、だから例えばこれから双葉でそういうふうな。

846 【渡辺 勇 委員】

847 だから長期避難、帰還困難区域になった場合には5年間は除染しないというふうな立ち位置に
848 なることで、逆にその5年で、先の話だけど10年、 $50\mu\text{Sv}$ 、あるいは $20\mu\text{Sv}$ あったやつが、5
849 年で半分以下になることは間違いがないんで、それは先生も分かってると思うんで。だからそれが
850 逆に除染しやすい環境になることもある程度考えられるというのはあるんですね。最初から20
851 をここまで下げようというのと、10だったやつをここまで下げようというのは、全然労力が違
852 うんで。

853 【武内 裕美 委員】

854 まず、帰還は区域の見直しの問題になってきますよね。町としては今、統一的な考え方で全町、
855 帰還困難区域ということで、今進めていますので。そうしますと今言われるように除染も、帰還困
856 難区域になってます、ということになってくると思いますので、やっぱり短期的な考え方はもう
857 5年間は戻れないというようなことが出てくると思いますけれども。

858 【渡辺 勇 委員】

859 ただ、個人的な思いとしては、やっぱりその家とか財産の保全というのを考えると、早く洗い
860 流してほしいというのをやっぱり個人に戻ったときは、考えると思うんです。ところが、先程お
861 話にてきたような瓦礫、倒壊した家屋の瓦礫も放射能がなければそのまま撤去して、産業廃棄
862 物で捨てられるわけですよ。ところが今、双葉町で倒壊している家がみんな放射能、放射性廃棄
863 物に近い、汚染廃棄物なわけですよ。そうすると下手に動かさないし、だから仮置き場から中間
864 貯蔵施設と言っても、国の見込み量はかなり甘いと思うんです。あの崩れた家の数数えたら、と
865 んでもないですよ。

866 【西内 芳徳 委員】

867 浪江のあの元アルプスのところに相当量の廃棄物がある話をしましたけれども、実際、聞いた
868 りしてます。あれ全部双葉に運ぼうとしているんですよ。

869 【渡辺 勇 委員】

870 だからそれ圧縮しないと。圧縮作業がまず大前提で。

871 【遠藤 直敏 委員】

872 それとこのゴミ。

873 【西内 芳徳 委員】

874 浪江の一部除染ただけでグラウンドのトンパック 5 段重ねくらいで、グラウンド全部やると
875 いう噂だって、本当かなと思って。

876 【渡辺 勇 委員】

877 だから今、檜葉が始まってますけど、道路の沿線ずっと黒い袋がね。

878 【武内 裕美 委員】

879 果たして 5 年帰還困難区域で、それまではもう町の復旧は困難ということになって、果たして
880 町民の方はそれでいいのかという問題も出てくる。

881 【木幡 敏郎 副部長】

882 しかし補償との絡みで、その富岡でも大熊でも、いろいろそれは何らかの結論を出していかな
883 きゃならないことになるんでしょ。

884 【武内 裕美 委員】

885 そうなった場合、今度は家屋等も 5 年間も放っておいたんでは、どこの家も住めなくなっちゃ
886 うんでね。やっぱりもう町全部を、5 年後は新しく、線量の関係もありますけど、全部新しくす
887 るような形でないと難しいのかなと。そうしますと、全体を土地区画というかね、まとめて、も
888 う、圃場整備するようなことでやっていく方法も考えざるを得なくなってくんのかなという気が
889 するんですけど。

890 【木幡 敏郎 副部長】

891 そうだな、その方がやりいいかも分かんない。いいですか。大体、いいです。課長には課長な
892 りのいろいろな情報は私らも勉強になるしね。とにかく、町民の皆さんのいろいろな、これから
893 の心配に向けて、この委員会がどのような意見をまとめられるかということは、あと数回やって、
894 それが町の考えだという方向になるわけですから。是非ともよろしく願い申し上げます。常に
895 修正も含めて、これ今回の意見は、またこの次、まとめて出してもらえんということ。一応予
896 定として今回は、津波被災地域の土地利用の在り方ということがテーマになりますので、その辺
897 についてのいろいろちょっとした勉強といいますか、情報などを是非とも収集して臨んでいただ
898 ければありがたいなと思います。では、その他今回の、本日のテーマで何か言い足りないとか。
899 まだまだまとめの段階になればまたあれですけど。よろしいですか。

900 【西内 芳徳 委員】

901 ふるさと再建というのは違うんだけど、せっかく宗像委員がいるので。お墓の扱いというのを
902 町の考えといろいろ聞いてみたい。家はもう諦めつくけども、お墓はなんかこう倒れこんだのを
903 起こしたりとか。

904 【武内 裕美 委員】

905 何とかこう 1 ヶ所へある程度まとめた中で、つくっていければということ。をね。

906 【西内 芳徳 委員】

907 今までの既存のものを修理とか。

908 【武内 裕美 委員】

909 それは線量の問題もありますけどね。

910 【西内 芳徳 委員】

911 町主導は難しい。

912 【渡辺 勇 委員】

913 だから、高いところは低いところに移したいし、移す先の協議も必要となってくるから。だから、比較的無事だった他地域もあるし。あまり意外とないのかなと。

914

915 【西内 芳徳 委員】

916 実は浦尻、女房の実家の方のお墓に行ったら全部直ってるんですよね。立ち入りが自由になった途端に。でも角が欠けてるから間違いなく直したんだなという感じで。

917

918 【木幡 敏郎 副部長】

919 線量が低くて。

920 【西内 芳徳 委員】

921 あそこは泊まれないけど出入りが自由で自動車も入れるから入ってるんですよね。

922 【木幡 敏郎 副部長】

923 それは個人でやってんだね。お墓は個人で。

924 【宗像 邦浩 委員】

925 うちら業者でもやっぱり山田・石熊の方は線量が高いんで、できれば役場の方から作業できませんと言ってもらいたいというのが本音なんです。その他の地区だったら、入っても構わないんですけど、やっぱりその線量、なるべくなら浴びたくないんで、あまりにも高いところはその線量が高いんで。

926

927

928

929 【武内 裕美 委員】

930 ご遠慮願いますとね。

931 【宗像 邦浩 委員】

932 役場の方でちょっと声かけてもらえればうちらは助かるんです。

933 【木幡 敏郎 副部長】

934 でもやっぱりそれは個人のものだから、お墓は。ましてや今、立ち入りだって個人で入ってるからな。

935

936 【宗像 邦浩 委員】

937 そうなんですけど、やっぱり頼まれればやらなきゃいけないという思いはあって。

938 【木幡 敏郎 副部長】

939 危険だと思ったらやれない、他の業者と言ったらいい。

940 【宗像 邦浩 委員】

941 それはそうなんですけど…。

942

943 4. 閉会

944 【木幡 敏郎 副部長】

945 そんなことで、それではなければ、以上をもって本日の部会を終わりたいと思います。どうも

946 皆さん、ご苦労さまでした。

第1回ふるさと再建部会座席表

(敬称略)

1 日時 平成24年11月12日(月)

14:45~16:30

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-B

副 部
部 会
会 長
会 長



宗像 邦浩

遠藤 直敏

西内 芳徳

伊澤 慶昭

清水 修二

木幡 敏郎

武内 裕美

渡辺 勇

平岩

事務局

中陳

事務局